

中学校社会科における学習指導について⑤

—これまでの実践をとおして得られたもの—

溜池 善裕・大嶋 正克

宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要 第10号 別刷

2023年8月31日

中学校社会科における学習指導について⑤[†]

—これまでの実践をとおして得られたもの—

溜池 善裕*・大嶋 正克**

宇都宮大学共同教育学部*

小山市立小山第三中学校**

新学習指導要領によって、これまでの学力観は大きな変更を迫られた。その変化は、日々の授業の在り方にも及ぶはずであり、育むべき学力についても観点別学習状況の評価についても大きな変化が見られたのは周知のとおりである。これまで4回にわたり「中学校社会科における学習指導」について授業記録を提示しながら論じてきたが、これらは授業における生徒の主体的な取り組みを促すための具体的な方法論が主であった。今回は、このような学習指導によって育っていく学力とその評価に焦点を当て、その評価の対象であり結果でもある授業記録を提示した。

キーワード：中学校社会科，学習指導，主体的・対話的で深い学び，一人学習，共同学習，評価

1. はじめに

新学習指導要領は、これまでの4観点を3観点に再編成しただけでなく、その内容についても従来とは違う理解を求めている。例えば「知識・技能」については「事実的な知識の習得」だけでなく「知識の概念的な理解」を掲げており、授業の場において実際に用いる場面を設けることで評価していくとしている。また、「主体的に学習に取り組む態度」については、「性格や行動面の傾向を評価」するのではなく、「自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうか」という意思的な側面

を「評価」するよう求めている。つまり、「粘り強い取り組み」をしていく中で、その取り組みが「知識及び技能の習得」などに結び付いていない場合、教師が学習の進め方を適切に指導しなければならない。

しかし、日常的に行われている授業では、教科書の記述内容を教師が咀嚼したような説明一辺倒の講義ばかりに終始し、自主学习と称した一問一答形式の問題をひたすら解くばかりの学習が蔓延しているため、教師の指導は正答に対する賞賛か、何ページ取り組んできたかという作業量を促す関わりばかりとなる。これでは、従来からの「事実的な知識の習得」に特化した学習指導と言わざるを得ない。

学習者である生徒自身は何にどう取り組むべきか、そして教師が果たすべき役割とは何なのか。この場で改めて「学習への取り組み方によって習得される学力」と、「評価の在り方」を述べていきたい。

† Yoshihiro TAMEIKE* and Masakatsu OOSHIMA**: Learning Guidance in Junior High School Social Studies (5) : What I have learned through my educational practice

Keywords: Junior high school social studies course, Learning instruction, The learning that is like independent talks, and is deep, one-person learning, Combination learning, evaluation

* Cooperative Faculty of Education, Utsunomiya University

** Oyamadaisan Junior Highschool, Oyama (連絡先: tameike@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

2. 学習指導

(1) 学習の主体性

生徒は、授業で扱われていく内容をどの程度自分のものとして理解できているのであろうか。少なくとも概念的な理解を求めるのであれば、「事実的な知識」に対する「周辺の知識」が備わっているかを

見取る必要がある。即ち、ある事象が他の事象とどのように結びついているのか、そしてその結果どのような現象が生じたのか等を問うことである。しかし、いちいちそのような問いをしていくのは教育課程上、現実的ではない。そこで、単元全体を貫くような学習課題を提示し、それに対する学習者自身の考えや意見の提示を求めていくことが必要である。そのためにも、従来見られたように教師が自身の価値観によって社会事象の紹介や解説をするような行為は極力避けるべきである。なぜならそこで得られた見解は教師によって与えられたものであり、生徒自身が習得した知識ではないからである。あくまでも「ある事実」に対し、どんな事象をどのように結びつけていくのかを考えるのは生徒自身に委ねるべきである。そのための学習指導こそが、教師に与えられた役割に他ならない。

単元全体に及ぶスケールで学習課題を設定し、それに対する個々の考えを述べさせる。その文章の中から明らかな事実の誤認や関連させた事象に対する矛盾点の指摘、或いは独自の視点による関連の仕方への賞賛を与えていくことで、ものごとを相互に結びつけていく力を養うことができると同時に、文章読解力並びに表現力も鍛えることができるのではないだろうか。

学習者自身が独自に課題を解決していく力を身につけていかなければ、自主的な学習も成立しない。既に述べたように、巷ではワークの問題ばかりを解く勉強が広まっており、その要因を問一答形式のテストに求めがちであるが、そもそも個々の生徒に、「ものごと」や「事実」を自分の眼差しで見つめて理解しようとする意識が育っていないことが原因である。教科書の内容をただ眺め、記述内容を「見たまま」覚えようとするところに発展的な学習を阻害する要因が潜んでいるのである。

以上のことから、「生きて働く」概念的な理解を促していくのであれば、知識や暗記を押しつけるのではなく、生徒が自ら概念的な理解をしていくための授業を展開し、そのための助言を継続的に与えていくべきである。その結果、問題をただ解くような学習にはならず、知り得たある事実に対し自身の視点でものごとを深く考え、様々な背景を結びつけていく学習⁽¹⁾へと誘うことができるのである。生徒たちに闇雲に自主学習を要求したとしても、穴埋めする作業しかやろうとしない。それは長らく教師自

らが招いた結果でもある。主体的なものの見方・考え方を獲得させていくことこそが、主体的な学習を可能にさせていくのであり、尚且つそれが「知識の概念的な理解」へとつながっていくのである。

(2) 学習の継続性

継続した学習についても中学校では大きな課題がある。即ち、定期テストの存在である。テストでは採点に対する公平性と客観性、さらには迅速性も求められるため、社会科の場合どうしても問一答形式の出題を避けることが容易ではない。その結果、1つのものごとを深く掘り下げるよりも、広く浅く語句を覚えれば良いという、その場限り（しのぎ）の勉強となっている現実がある。

ここで述べている継続性とは、ただ習慣的に机に向かうことではない。ものごとを理解するために、そのものごとが他のものごととどのように関連し合っているのか、結果どのような現象を引き起こしているのか等を粘り強く追究していくことである。そのためには安易に正答を求めるとか妥協することなく、自ら調べ抜く姿勢が必要である。昨今では、ありとあらゆる情報が入手できる世の中であるため、ネット上の情報をコピーしてきただけの内容も見受けられる。したがってここで指導すべきことは、対象となる資料をただ収集するのではなく、数ある情報の中で「なぜこれを選択したのか」「どのような問題意識をもっているのか」という自分自身への問いかけを認識させていくことである。この事象を扱うと意志決定したのは他ならぬ自分自身であり、他者ならば違う事象を選んだかもしれないという視点の違いを理解させることで、コピーは意味のない行為と気付くだけでなく、自分の頭で考えなければならないと悟るはずである。

調べ学習とは、単なる事実の羅列や誰かの作品・意見を紹介することではなく、扱う事象を他の様々な事象とどのように結びつけて、結果、自分はどうか考えたのかを分かりやすくまとめる学習である。それは、あえて調べる場面が用意されてから始まるのではなく、先に述べたように単元毎の授業で与えられた課題への回答によっても事象を相互に結びつけるような思考の機会が設けられている。つまり、これらの学習指導によって思考・判断する能力育成も自ずと図ることができるのである。

そして、真の調べ学習が実施されれば、そこには紛れもなく自分の意志が存在し、前述した「学習の

主体性」にも結びつくことになるのである。

以上のことから (1) (2) の学習指導は、単発的に行うものではなく、相互に関わり合いながら実施していくことで、新学習指導要領が掲げる3観点の学力を育ていけるものと考え。そのためにも教師は、生徒達の興味や好奇心を刺激するような教材を用意したり、学習内容が自分達の生活に結びつくような問題であることを意識させたりする単元構成⁽²⁾を創り上げなければならない。

(3) 共同の学習活動

(1) (2) で述べてきた内容は、あくまで生徒個人の学力を育ていくための指導である。学習を推進する動機は個人にあるのだから、学習は個人的な行為となる。しかし、ものごとを少しでも正しく認識しようとするのであれば、自分以外の多様な視点や考えが必要となる。そこに「話し合い」の必然性⁽³⁾が生まれてくるのだが、学級内に信頼関係が構築されていなければ、互いに本音をぶつけ合う活動とはならない。また、前述した個人における学習活動が確立されていなければ、学力上位者の意見ばかりが尊重されかねないような依存学習に成り下がってしまう。このことは一般的に広く行われているグループ学習も同様である。教師による細やかな配慮が行き届いていないと、単純に答えだけを手取り早く教えてもらうだけの関係になってしまうか、常に教える者と教わる者との上下関係を生み出す危険性を産みかねない。

中学校は教科担任制であるため、学級集団への働きかけは担当授業の時間内だけが勝負となる。勿論、学級担任との情報交換、或いは基本的な経営方針についても意思の疎通を継続的に行い、人間関係や興味・関心の対象等を把握しておく必要がある。その上で個々の生徒に寄り添いながら学級全体の雰囲気を感じ取り、本音を自由に話し出せるよう努めなければならない。

3. 学習に対する評価について

(1) 知識・技能

単元全体を貫く課題に対し、学んだ内容を総動員して自己の認識を記述することができなければ、真に学習内容に対する知識・技能を獲得したとは言いがたい。ここで設けている単元全体を貫く課題とは、新学習指導要領に基づいて示されている「内容のまとめりごとの評価規準」⁽⁴⁾を指している。各校や

学年の実態に応じて評価規準を作成することになるのであるが、現実には定期テスト等での得点実績との整合性も考慮する必要がある。とは言え、これまでの実践から得られたデータ(2018年～2022年に個々の生徒における定期テストでの「知識・理解」に該当する設問の得点と「振り返り」として実施した単元全体を貫く概念的知識の記述状況を比較したもの)からも、単元全体を貫く学習課題が概ね記述できてさえいれば(単元全体における知識の概念的な理解が得られているのなら)、一問一答式の設問についても7割程度の正答率を達成させているのである。したがって、知識・技能を習得させるため、教師による教科書の説明に終始する授業や、わざわざ問題集を解きまくるような勉強をさせたとしても、その教育的効果には明確な違いを確認できないということになる。そうであるならば、教師主導による一方的な授業展開や自主学習と称する宿題の強制的な提出は、かえって生徒の主体的な学習を阻害することになるのではなかろうか。

(2) 思考・判断・表現

(1) で示したように、単元全体を貫く学習課題を記述する場面において、学習した個々の社会的事象を相互に関連付けながら単元の全体像を構築しようとすることによって、必然的に思考・判断・表現する学習活動が成立する。その記述内容を作成済みの評価規準と照らし合わせることで、評価が可能になる。

また、提出された調べ学習の内容を実情に応じて加点することで、より生徒の実態に即した評価を示すことができるものと思う。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

理想としては、たとえ学習が定期的に行われていなくとも、生徒が既習事項や日頃から気にかけている事柄について積極的に調べてくれば、評価していきたい。しかし、主体的な学習そのものが確立されていなければ、いくら提出を促したところで、その実現は叶わない。わずか1年間だけの指導によって日常的に継続的な調べ学習を行うことができる生徒が出現するのは、実態によるバラツキがあるものの、これまでの経験から各クラス10数名程度に留まるであろう。したがって現実的には、長期休業中の課題として調べ学習の機会を設けるとか、授業の中で調べ学習を行う場面を設定し、課題として実施していく中で評価していくことになる。だが、そのよう

な時間の確保ですら限られた授業時数の中でやり繰りするのには困難な場合も考えられる。そこで、(1)の知識・技能で述べたように、単元全体を貫く課題に対してどのように取り組んで記述してきたものかについても、評価する構えを教師は備えておくべきである。

また、本観点では、新学習指導要領に基づいて示されている「内容のまとめりごとの評価規準」(p.10 図4)にも示されているように、いくら学習に粘り強く取り組み続けていようとも、自らの学習を全く調整しようとせず成果が表れないのであれば、「努力を要する状況(C)」に評価せざるを得ない。

そして評価を与えるからには、根拠となり得る学習の記録とそれに対する指導の痕跡も確認できなければならない。生徒たちに対し、粘り強く継続的な学習を求めるのであれば、教師側にも粘り強い指導を続けてきた足跡を残すよう求めて然るべきである。教師が、単に調べ学習やレポート、課題の提出状況をチェックするだけに留まるならば、それは生徒の真面目さに依存しているだけであり、学習指導の果てに行き着いた評価とはならない。教師の励ましの言葉は勿論、至らない点に対する具体的なアドバイスの記述に対して、生徒たちがどのように向き合ってきたのか、それこそが評価の対象となるのである。

4. 共同学習の成立と評価

新学習指導要領によって、従来からの評価の観点や手法は見直されるような動きを見せた。定期テスト等における記述問題の増加は、知識・技能の活用力や思考・判断・表現を評価するための手段であるといえる。しかし、それらの能力を育てていくために日頃の授業がどのような役割を果たすべきなのか、はたまた、テスト以外の評価方法はどうすべきなのかといった具体策はあまり聞こえてこない。そして、生徒の育ちを見届けるためには、それ相応の負担があることも覚悟しなければならない。それ故、「客観性」という言葉を武器に、未だテストの点数のみで評価を下す手法にこだわりをみせる教師も根強く残っている。

学び得た学力を日常生活で発揮していくためには、生徒にとっての社会そのものである学校や学級の在り方も大きい。教師への付度や周囲への同調圧力ばかりが求められるような集団では、個の意見を

発言することすら憚られてしまい、秩序を保つために沈黙を余儀なくされるからである。集団内での人間関係構築の第一義は学級担任にあるのだが、中学校では教科担任であってもその責務の一端を負わなければならない。授業以外の関わりが薄いからこそ生徒の動向を見守りつつ、共同学習が成立するような授業展開に努めることこそ学習指導と謳うべきである。

ここまで述べてきた一連の学習指導を経ることで、主体的な学習のみならず、より良い関係を構築する学級指導も両立することができる。以下にその授業記録を付す。

5. 授業記録

授業実施日：令和5年3月3日(金)第1校時

実施学級：3年9組(原学級)

単元名：私たちが目指す社会を実現するには

概要：本授業は、3学年社会科公民的分野の内容D「私たちと国際社会の緒問題」にある中項目(2)に関連して設定した。今までの人生において受けた不条理な経験を元に、個人が設定したテーマを調べ、その成果を持ち寄って実施した共同学習(単元計画11/12)での発言記録である。

1T：はじめましょう。

2学級委員：起立、気をつけ、礼。

3T：はい、お願いします。

4C：お願いします。

5T：はい。じゃ皆さんね、えー今年から1年間のおつきあいということで、えー公民の授業を担当させてもらいました。で、えーずーっとやってきましたけども、えー今までやってきた社会科の集大成になります。今日は、ね、皆さん色々学習してきたことを総動員して、えーこれから自分達が未来に向けてね世の中に出ていくために、どんな社会が理想なのかっていうことをね、調べてもらったと思いますので、えー今日はその調べた内容を持ち寄って、みんなで考えていく時間にしたいと思いますので。よろしいでしょうか。じゃあの早速ですけども、えーめあて、ねらいですね。今日の授業に臨むにあたってどんなことを目標にしたらいいかをそれぞれノートに書いてくださいね。2人程発表してもらいますから。

6T：<机間巡視しながら>いいよ、(ノートを)取

りに行った方がいい人は、取りに行ってください。<4名が後ろのロッカーに取りに行く>この後、振り返りにも使いますから。<さらに1名がノートを取りに行く>あと1分くらいでお願いしますね。

7T：お約束の時間来ましたが、まだペン動いている人がいるんですけど大丈夫ですか。じゃ、えーと、設定したねらい、発表してもいいかなという人がいたらお願いします。あっじゃNA男さん、お願いします。

8NA男：はい。えーねらいは、(T：うん)相手の話をよく聞いて、(T：うん)自分なりの言葉でちゃんと理解する。

9T：あつ人の意見を聞いて、自分なりの言葉で理解するということですね。分かりました。もう1人どうでしょう。2人(手が)拳がりました。じゃKK男さん。

10KK男：はい。えー普段あまり関わりの無い人たちの意見も聞いて、(T：うん)自分とは違う価値観を理解する。

11T：あつなるほど、いいことですね。普段関わりが無いんだったら、この機会に是非ということですね。(KK男：はい)わかりました。では、えーそんなね、それぞれねらいを作ったと思いますので、それをもとに授業を始めていきましょう。では、どうですか。今まで自分が調べた事について、まず皆さんにお伝えしたいこと、お知らせしたいこと、どうでしょうか。調べてきたことでいいですよ。はい、じゃNA男さん。

12NA男：はい。(T：みなさんにいいですか)あ、みなさんにいいですか。みなさんいいですか。(C：いいです)

13T：はい、どうぞ。

14NA男：僕はあの校則について調べたんですが、(T：うん)あれ、この学校まあってか校則っていうものは、まずなんか文部科学省とかで決まって、えっと(T：うん)決まって(T：うん)学校目標を達成するために(T：うん)えーまあ校則っていうものが存在するんですけど、(T：うん)で、まあそう考えたときにまあ三中のがつきよう、あつがつきようじゃねえや(C：ハハハ)学校目標、学校目標にある、(T：うん)自ら進んで学習する(T：うん、これね)、えー正しく判断し行動する(T：うん)、心身

を鍛える(T：はい)ってあるんですが(T：はい)、三中の校則で言ったら(T：うん)ま、2番はまあちょっと厳しいっていうか、ま、達成が難しいんです。(T：ほお何ですか)あの一大体何をやるかっていうの、ほとんどなんか校則でこれをやれとか、あーこれをやれとかなんかもう決まって、(T：うん)自分でまっ判断することってまず無理。うん、もうそれをやれって決まってるから(T：うん)、どうしようもない。ま、なんで2番なんなのは無理(T：うん)。あつ2番ていうのは正しく判断するってやつ。<右横にいる生徒からのお尋ねに対して>あと何を言えばいいんだろう。じゃこれくらいで。まあ無理そんな感じですよ。はい。(T：皆さんに)あー皆さんどうですか。

15T：NA男さん、どうぞ。(NA男：はい。じゃあ、じゃIS男さん)

16IS男：自分は、いじめが起きる原因について(T：うん)調べました。(T：いじめですね、はい。どうぞ)小学校の時に(T：うん)いじめられていたことがあったので、(T：あーそういう体験があったんですね。それで)それで調べてみたら(T：うん)そのストレスっ、先生とかに、が厳しくてその(T：厳しいっていうのは何が厳しいのかな)えーっと、(T：うん)校則とかで(T：うん)そのきつくて、校則とかが厳しくて(T：うん)その、あんまり自由にできないってその(T：それいじめと何が関係あるんだ)あつその(T：うん)それでその子どものストレスが(T：あつ校則が厳しいと子どものストレスが溜まるからいじめにつながるんじゃないかって言いたいんですか)はい。(T：なるほど)

17T：小学校の時の校則って厳しかったんですか。

18IS男：あつどっちかっていうと、(T：うん)先生が結構怒りっぽくて(C：爆笑、T：それは校則じゃなくて先生の問題?皆さんに)皆さんどうですか。あつYY男さん。

19YY男：みなさんいいですか。(C：いいです)えっとIS男さんが、えっと先生が厳しかったって言ってたんですけど、(T：あれ、IS男さん(ネームプレート)がないぞ。あつ、あつ)<C：笑い>(T：はい、どうぞ)その中学校でも、(T：うん)中学校の自分はあの学習指導要領を買っ

て読んだんですけど、(T: 買っ、買って読んだのね、うん) その学習指導要領に、あの学校や学級内の人間関係を整えることっていう項目があって、(T: うん) そこには教師と先生との関係は、あの教師が生徒に対して持つ人間的関心と生徒が先生の生き方に寄せる尊敬が必要だって書いてあって、(T: うん) 自分は(T: うん) 生徒は先生に対して尊敬する必要ないんじゃないかって思うんです。(C: 笑い) (T: なんで) あのー (T: うん) まっ、自分も尊敬できる先生はたくさんいるんですけど、(T: うん) あのーまあ言っちゃおうと、(T: うん) あのー気分で (T: うん) 動いたり、(T: うん) 女子にだけ鼻直ししたりする (C: 笑い) (T: いるんだ) で、(T: うん) なんか、その一すべての先生に尊敬できないっていうのが自分の気持ち (T: うん) なんですけど、(T: うん) 皆さんどう思いますか。じゃ KrM 女さんお願いします。

20KrM 女: はい。んと、私もあのー先輩のことを尊敬しなきゃいけないの、なんでなのかっていうところから入ったので、(T: うん) あの一年上の人を敬わなきゃいけないのは、なんか社会に出てからなんか年功序列があるから、社会に出て (T: うん) うまく働くために学校でそういう先輩を尊敬するっていうのを経験することで、社会で働けるようになるっていうのを聞いて、それは生徒のために、なんか生徒のためにそうやって教えてるんじゃないかって、そういう先輩を敬える (T: うん) 人間にすることで社会に出て、あのー効率的に働けるから、その効率的に働く (T: うん) 企業とかが得するから、(T: うん) そのために学校で教えられてるっていう (T: 効率的なためですか) そのほうが、(T: うん) コミュニケーション (T: うん) をとれる (T: なるほど、どうぞ続けてください、遠慮なく。あ、私の書く (板書) スピード気にしないで、どんどん言ってください。はい) それで、あのー尊敬できない先生もいるっていうので、(T: うん) 尊敬できない人がいても (T: うん) 敬わなければいけない (T: うん) 年上の人は偉いっていうのを (T: うん) 教えられているから、(T: うん) そういう風に言われているんじゃないかって (T: あー) 思いました。

21T: なるほど。今のわかりますか、皆さん。心から尊敬できないんだけど、あのーそういう風にもうさせられているっていうか、もうそう なっちゃってる。だからこういう風になってるんじゃないかって。どうでしょうか。

22KrM 女: SM 女さん。

23SM 女: はい。んと、(T: うん) さっきの意見について、尊敬するっていう意見についてなんですけど (T: うん) 私はルッキズムについて調べて、(T: うん) 見た目のことについて調べたんですけど、(T: うん) 人はそれ尊敬するとかじゃなくて、気に入られるようにする。自分が、良く見られようとして、尊敬しているわけじゃなくて、(T: うん) っていうコミュニケーションをとりについて距離を、近づいて自分がいい立場っていうか、なろうとしてるんじゃないかなって思います。んと、このクラスでアンケートをとったときに見た目を気にするっていうか、見た目についてなんか変えようって、いいほうがいいっていう意見っていうのがたくさんあって (T: うん)、なんか、なんで見た目を気にするのかっていうアンケートの中に、周りの目を気にするからっていうのがあって、(T: うん) 私なんか、私の意見なんですけど周りの目を気にするってことは、見た目によって人を判断するから見た目を良くして、その良くなりた。良く見られることで、その会社とかでも上の上司とかに気に入られて出世できるようとか、そういう思いがあるんじゃないかなあと思います。どうですか。TH 女さんお願いします。

24TH 女: はい。私もルッキズムについて調べたんですけど、あの最近整形する若者が増えてきて、(C: 整形?) はい、その整形をする理由が一番多いのが自己満足で。別に自分を良く見せるために整形してる訳じゃないから、まあ一番のために、あの見た目を気にするっていうのは、批判みたいで申し訳ないんですけど、ちょっと違うのかなって思いました。(T: なるほど。違うんじゃないかってことですね) はい。その、異性に好かれたいっていうのが 15% 位しかなくて (T: うん)、その、フフ異性を気にして整形する人は少ないから (T: うん)、別に自分で何ていうかな、理想の自分に近づくために

(T: うん) 整形する人が多いから、人からのためっていうのはそんなに気にしない人が多いんじゃないかなって思います。(T: 思うわけね。うん) 皆さんどうですか。

25T: はい、どうですか皆さん。違う意見が出ましたね。はい、意見あったらください、どんどん。TH女さん、TH女さん。

26TH女: YH男さん。

27YH男: はい。えっと、あの。その、あの何、僕が調べたことを、参考に何か言うことじゃなくて自分の考えを今から言うんですけど、(T: うん) あのまず、いじめは子どものストレスからっていうのは、あの僕たちが目指すのは理想の社会じゃ、ですからテーマが理想の社会じゃないですか(T: うん) なんかそもそも子どものストレスがたま、た、溜まるっていうことがちょっとでもあったら、それは理想の社会とは言えないんじゃないかな(T: うん) って思うんです。(T: うん) だから、あ、それとあと、その尊敬(T: はい)、先生、先生を尊敬するっていう。先生を尊敬しなきゃいけないとか、そういう問題っていうよりは、あのーそもそもあの理想の社会っていうのは、たぶんあの、みんなのことを尊敬するのが理想の社会なんじゃないかな(T: ああー) って思います。あと、理想の、もしも、もしも理想の社会ならば(T: うん) 立場を良くしなくちゃって(T: うん) あの整形、あの立場良くしよ、立場なんて良くしなくても(T: うん) そういう悩み事が生まれれないのが理想なんじゃないかなと思います。だから理想の社会をつくるにはもっとよく、欲張って考えない、欲張って考えたり大きく考えたりしないと(T: うん) だめなんじゃないかなと思います。

28T: YH男さんにすると、これは(板書を指差して) 欲張って考えなくちゃだめだってことなんですか。欲張りってのはそういうことですね。

29YH男: 皆さんどうですか。

30T: はい、どうでしょう皆さん。

31YH男: SkY男さん。

32SkY男: 皆さんいいですか。(C: いいです)(T: いいんだよ指されたから。うん) YH男さんからまあ指名が入ったんで。(C: ハハハ) 指名されたんで(T: うん)、自分の意見というか

調べたことをま、とりあえず(T: どうぞどうぞ)、(T: うん) 私がまず調べた(T: 皆さんの方を向いて、うん) 私がまず調べたこととして、えー表現の自由について私は調べました。(T: うん) で、私が過去に、ま、この表現の自由について調べようかと、調べようと思った理由について。えーまず2年。自分が中2のときに、まあえー1分間スピーチってあるじゃないですか、帰りの会のときに。(C: うん) そのときに自分の好きなこと、まあアニメとか、まあもの作りとかそういうことについて、あの自分、自分が好きなことを言ったんですけど、その後に友達からお前オタクだなとか、何かちょっと気持ち悪いなとか言われて(T: うん)、それで、それで結構傷ついて、傷ついたっていうか、まあ今も引きずってるんですけど(T: うん)、結構傷ついてまあ結構月日が、月日が経ってあのー3年になってあのー母親に、あの自分の好きなことについて聞かれて、それで答え、答えたらあの興味をもって最初は聞いてくれたんですけど、最後の感想がやっぱオタクだなと言われて。(C: 爆笑) で、少し疑問に思ったことが(T: うん)、なんでアニメとかもの作りとか、まあそういう自分の好きなことをまあ堂々と言ったつもりなんですけど、なんでそういうオタクとかなんか差別的というか差別的って言ったらいいかわかんないんですけど、なんか個人を侮辱するようなことを言われるのかなって、よくわかんなくて。ありのままの自分をなんか、みんなに見せたらなんか駄目なんかなって。まあ思ってまあ調べてみました。どうですか。えーとじゃあTS女さんお願いします。

33TS女: 全然話つなげられないんですけど。(T: ああ、いいですよ) えっ全然違うこと言っても(T: だからいいですよ。気にしないで)(C: ハハハ)(T: 気にしないでください) 自分でも何調べたかわかんなくて、(C: ハハハ) 主に、あの知識ばっかの学習指導について調べたんですけど(T: うん)、なんか学校のテストとか特に社会とかすごいあのー(T: 特に社会)、あのー(T: すみません) 一問一答みたいなのはっかじゃないですか。(T: うん) あのーそれはちょっと違うんじゃないかなあ。

(T:なんでそう思ったの) それって (T:うん) ワークとかに時間ちゃんとかけられる人ののが有利じゃないですか。(T:うん) なんか、ま、例えばですけど (T:うん) 片親で、片親で (T:うん) あの一親が仕事で忙しくて (T:うん) 家事とかも自分でしなきゃいけないって状況に置かれた人は、(T:うん) ま、勉強できないかって言われたらそうでもないんですけど、普通になんか親に全部家事とかもやってもらって、自分は勉強するだけみたいな感じの人と比べたら (T:うん) 勉強時間減るじゃないですか。(T:うん) それって、それだけで評価つけるのおかしいんじゃないかなって思って、(T:うん) 調べたんですけど。(T:はい) えっと、ま、その勉強に費やす時間も (T:うん)、その一問一答とか知識ばっかの問題じゃ解決できないし、(T:うん) その一調べた中で、んと2015年 (T:うん) の國柄のその高校入試 (T:はい) の問題に三平方の定理の問題が出されたんですよ。(T:うん) それって、学校では一応未習の部分なんですよ。(T:あぁー) でも出た訳ですよ。(T:うん) で、そしたら塾に行っている人たちってまぁ大体予習とかもするから、あ、これ三平方の定理だな。解けるなってるんで、(T:あぁそういうことね) なるんですけど、(T:うん) でも、その三平方の定理っていう知識がない人はわからないじゃないですか。(T:はい) そこで、なんか知識の差。塾に行ってるか行ってないかで、塾に行っている人は大体お金持ち、お金持ちってわけじゃないけど大体お金に余裕がある人だと思えますよ。そこで (T:うん) 塾に通ってる人と通ってない人の、その一お金の差 (T:うん)、なんか貧富の差もさらに知識のせいで変わってきてしまうっていうのが問題だと思って。その一勉強ってまぁみんながすれば、なんかみんな同じ状況で戦えるもんだ、みたいな感じがするんですけど、(T:うん) そういうわけでもなく実際お金の有無とか、その勉強に費やせる時間とか自分の置かれてる状況や環境によって、その一表面上でしか評価がされないっていうのが問題点だなーと思いました。

34T:なるほどね。ヤングケアラーの問題とかもありますからね。そこどうですか皆さん。

35TS女:KK男さん。(T:KK男さん)

36KK男:俺?はい。えーいいです、違うわ。(C:ハハハ) 全然話し変わるんですけど、(T:うん) 無言清掃について調べて。(T:うん) で、(T:みんなの方を向いていいよ) あぁえー (T:ははは) まぁ無言清掃をする、あつまず無言清掃をなぜするのかっていう理由を調べて、であがってきたのが (T:うん) 見つかったのは、ちょっと待ってくださいね。これだ。えー無言清掃をやりきることで子ども達に達成感や自己肯定感が育つ、育ったり、無言清掃を通じて子ども達一人一人に集中力がつきますって書いてあったんですけど、で、この場で質問してもいいですか。(T:どうぞ) え、実際に無言清掃やって集中力や達成感がついたって人っていますか。(C:ハハハ) いたら手を挙げてほしいんですけど。<YH男が挙手> (C:おぉー)

37YH男:壁拭きで、無言で清掃。あの、た、確かに喋りながら、やるっ、やるって集中力があがることもありますが、あの無言、無言で清掃する、するとなんか集中力が隔離するじゃないですか。あの一そっちのが確率が高いというか。集中力を高めるために喋らすのは逆におかしい。

38KK男:あ、あ、まぁまぁまぁまぁ。(C:フフフ) でまぁその他にも、始めと終わりの挨拶をきっちりしてはじめをつける事の大切さを知ることができるとか、あと子ども達が落ち着いた学校生活を送れるようになるってあったんですけど、別に無言清掃をやらされているからといって落ち着いた学校生活が送れているとは思えない (T:うん) んですよ。うん、なんだろう。この先、まだ言葉、まだ文作ってないんですけど (T:うん)、なんだろう。あまぁ言っちゃうと、清掃中に (T:うん) あまりよく給油ばかりやってるんで、(T:うん) よく他の清掃場所とか見ながら、見ながらというか給油取りに、あの灯油取りに行くときに結構色んな清掃を見るんですけど、無言清掃一応三種類もやってて、でそんなまっ、やってるけど、まっ平然と喋っている人とかはたまに見かける (T:うん) などと思って。で、ま、無言清掃をやって、ま、無駄な会話を無くしてるから当然その分仕事は早くなると思うんですけど、(T:うん) 仕事と、

ああみんな仕事を割り振られてるじゃないですか。例えばこの、あのー〇〇は、あの誰か箒を掃いたり、他の誰かはなんか雑巾で床拭いたりとか割り振られてると思うんですけど、その仕事が早く終わった後に、よく自分で仕事を、新しい仕事を見つけてやれって言われるじゃないですか。それをやるんだったら、違うな、違う何だ。(C:フフフ) ちょっと待って (T:うん) 全部おかしい。何ていうんだ。うん、ああ。ああ一旦、ああ (C:フフフ) (T:一旦?) 一旦ちょっと (T:はい) いいですか。(T:いいっすよ、はい) ああどうですか。

39T: はい、じゃー応どうですか。ここまでですけど。

40KK男: YY男さん。(T: えっ, KS男さんも (挙手している), KS男さんも) あっKS男さん。

41KS男: はい。えっと今、えーとま、無言清掃って言われて、(T: うん) えーと、まっさっきKK男さんが言ったように無言清掃をすることで、あの今後に役立つみたいなことを言ったんですけど、(T: うん) えっと校則全般が、校則を守ることで、あの一今後の社会に役立つっていうのを先生は (T: うん) えっとま、よく言ってると思うんですけど、(T: うん) えっとま、髪型を (T: うん) ま、例で、例にするとしたら (T: うん) えっとま、自分達は、ま、男子だったら眉より上で耳は出すみたいな感じにするんですけど、(T: うん) その男子の先生の中にはあのーツブロックしてみたり、なんか校則、自分達の (T: うん) 校則に当てはめたら絶対引っかかってる先生が (T: うん) 何人かいて。女子の先生でも、あの髪を下ろしたり染めたりとか、ていう人がいて。えーっとその校則を守ることで、それがそのまま社会に役立つかって言われたら、あのーそうではないっていうのがもう、あの先生が、あの証明してくれてるので、(T: ハハハ) (C: フフフ) その校則っていうのはそもそも無くていいのかなっていうのを自分は思います。みなさんどうですか。

42T: はい、どうですか皆さん。

43KS男: あっYY男さん。

44YY男: はい。えと自分2回目の発表でまあ。あ、みなさんいいですか。(C: いいです) えー2

回目でもないんで、全部出し切るんですけど。(C:フフフ) えーとまずTS女さんが (T:うん) 言った、あのー学習についてなんですけど、(T:うん) あのーこの、国はアクティブラーニングっていうのをを出してて、(T:うん) これはあの能動的学習っていう自分から勉強する意欲っていうので。三中は去年とか一昨年に比べたらグループワークってのが各教科で増えたと思うんですよ。でもそのグループワークって本当にアクティブラーニングなのかなって思って。グループにしろって言われてグループにして、それについて話し合えてって言われて (T:うん) 話し合って (T:うん)、それって結局はやれって言われたことをやってるだけだから、が、自分から、主体性じゃないんじゃないかなって思っていました。でーKK男さんの意見の中で自己肯定感っていう言葉が出たんですけど、自分、生徒指導提要っていうの読んだんですよ。(C:フフフ) で、そこに自己存在感っていうワードがあって、(T:うん) で、そこにはえっと、今まではあのークラスの中から自分は、あのーその存在を認められているっていうのを、だけで良かったんです。(T:うん) でも今は、そのー認められているから、その先が必要。例えばこのクラスで挙げたらNA男さんって足が速いじゃないですか。(C:頷く) で、足が速いっていう、今まではそれだけで良かったんですけど、あの、これからは足が速いからクラスの代表に選ばれるとか、足が速いから何か、その先につながるような事がないと、この自己存在感、自分が認められている自己有用感につながらないっていうことになって。でー次にKS男さんの、あの校則についてなんですけど。このーそれをやってる、あの、その調べ学習、をやっているときにこの学校の、あの生徒指導の先生みんな知ってると思うんですけど、に質問されたんですよ。あの、この学習指導要領とかどこで買ったのとかって。で、その先生は、学習指導要領全部読んだことがないって言ったんですよ。えー自分が必要とした所だけピックアップして、しか読んでないって言って。国から配られたものを、あの自分が必要そうだなって思う所だけしか読まないっていうのは、(C:フフフ) 普通におかしいんじゃない

いかって思って。でーあとは、あつあと、あの最近の卒業式練習とか、あの一あくびの話。これ自分なんですけど、(C:ハハハ)あの一ま、某先生にはっきり「あくびーこんな所であくびしないほうがいいよ」とか言われて、このあくびって眠いときに起こるっていう考えの人が、まあ定着してるんですけど、あくびの起きる理由って脳の酸素が足りなくなったからなんですよ。で、眠いときにたまたま脳の酸素が足りなくなるから、眠い=あくびになってるだけで、そのあくびっていう、あくび=眠いっていうのが間違ってる、でその眠いが退屈っていうふうに捉えられちゃうから、あくび=退屈で怒られるっていう。それからあくびは、あの悪い事じゃないのに、生理現象なのにそれを注意されるってのが自分は気に喰わなかったんです。(C:ハハハ)えーあの、教育委員会。(C:ハハハ)あの一よく生徒間の会話で、「じゃ教育委員会に訴え、訴えてやるよ」っとか言うんですけども(C:ハハハ)、あの一結論から言っちゃうと教育委員会はなにもできません。(C:ハハハ、ほー)あの校則とか変えたいと思ったときに一番の責任があるのは、その各学校の校長先生なので。あの教育委員会に言ったとしても、その各学校への注意勧とか、そういう勧告しかできないので、あの一本当に変えたいと思うなら、その各学校の校長とか、そ、そういうふう直接アタックしていかないと何も変えてくれないっていうのがわかりました。はい以上です。みなさんどうですか。

45T:ま、今の、YY男さんが自分で調べたことをみんなに情報提供してるわけですね。うん。これを受けて、みなさんどうですかってことです。それぞれ出てきた意見に対して言うてくれるって。時間的にラスト位ですからね。どうですか。

46YY男:SkH男さん。<周囲からSkY男が拳手しているのを指摘されて>(C:ハハハ)SkY男さん。

47SkY男:えーっ、いいですか。(C:いいです)えーっ、まあこれは意見というよりは愚痴なんですけど聞いてもらってもよろしいですか。(C:ハハハ。大丈夫です)まあまず、先程(YY男)愉快(ゆさ)さんから出たあくびの話あるじゃ

ないですか。あの一さつき話し合ったときにあくびは眠いときに出るっていう、そういう何だろう、そういう何だろう迷信みたいなそういう考えがあるじゃないですか。それ自体がなんか当たり前みたいになってきちゃってる。っていう、か、と思うんですけど、なんか当たり前体操ってあるじゃないですか。(C:ハハハ)あの一前、前足出して歩ける。それって、まあ足、私たちって、まあ当たり前(KK男:当たり前じゃない)って、<意地焼いて右手で自分の腰を叩く>(C:ハハハ)足あるじゃないですか。それっ、あの一まあ世界中にはまあ病気とか、まあ地雷とかそれ踏んで、それ踏んで足なくなっちゃった人があるじゃないですか。私たちのように足のある健常者は前足出して歩けますけど、地雷とかま、そういう病気の、踏んで義足になった人どうでしょう。あの一前足出しても自由に歩けないってのがあるじゃないですか。なんかその当たり前体操自体っていうのがなんかどうなのかなって思うのと、ま、さつき言ったオタクの話あるじゃないですか。なんかアニメ好きかだと必ずオタクっていう、そういう風習っていうかあのそういう迷信があるんじゃないかって思うんですけど、あの機動戦士ガンダム。私、好き、好きなみんな知ってるじゃないですか。(C:ハハハ)あの機動戦士ガンダム、ダブルゼータガンダム、ダブルゼータってわたって、主題歌にえー「アニメじゃない」っていうのがあるんですけど。常識というメガネで私、私たちの世界を見ないっていうのがあるんですけど、ま、まさにその通りなんじゃないかなって。もう常識に囚われては駄目だと思うんですけど、皆さんどうですか。

48T:次でラストです。SkY男さん。

49SkY男:NA男さん。

50NA男:はい。ま、とりあえず手挙げて見たんですけど。(T:うん)(C:フフフ)えーそうですね。まあ、まあ俺も一応まあアニメオタってことで、えーちょっとSkY男さんの所へ行くんですけど。(T:うん)まあ別にまあ俺って結構言ってるじゃないですか。<C:頷く>まあ別にまあね、色んなま、見方があると思うんですね。俺もね「NA男君ってやばくない」みたいな。(C:ハハハ)「あーちょっとNA男君っ

てこういうの趣味なんだ」って、ま、別にそれかって、俺は何も思わないです。オタクだねって言われてもっ（C：ハハハ）で、オタクって言葉に別に俺は危機感っていうか、別になくて。まっ逆に何て言うんだろう。ま、嬉しい、ま、特に嬉しいぐらい（C：ハハハ）オタクって言われるってのは。あ、まあまそれはまあそこら辺にしといて。そうだなー、あの一僕、校則について調べて。なんで校則変わらないのかって、まあ俺たちがまああの校長先生にまあ措置らないってのもあるんですけど、まあなんで措置んないのかっていうのは、まあその変化が嫌いだから。ま、これ結構あるじゃないですか。日本人ってね、変化が嫌いとか。まあでも、これってなんかまあ俺的には違うんじゃないかなって思って。変化が嫌いっていうよりも、周りとの足並みを揃えたい。ま、これはなんかいわゆるあの同調性っていうやつらしいんですけども。周りと一緒に行動したいとか。俺なんか特にトイレ行くときも友達誘うんですよ。この後、これがね、いい例なんだと。女子とかもよくトイレ行くときに「○○ちゃん、行きましょう」みたいな。（C：ハハハ）だからまあこう、こういう同調性っていうのを何だろう、無くしてくってわけじゃないけど、何だろうな。ま、そういうのが無くなれば、まあちょっといい社会になるんじゃないかなって思いました。はい、以上です。

51T：はい、ありがとうございました。じゃあ振り返りです。はい、今日の授業ね。自分が書いたねらいに照らして振り返ってください。もう本当にね、時間があと3分位だから、ちゃちゃっを書いてください。うん、もうちゃちゃっでいいですからね。じゃ、時間がないのでね、あの書くのは後にして大体こんなことを思ったってことを言うてくだされば結構です。もちろん言った後ね、後で書く内容が変わっても結構です。じゃ大体で結構ですから、さっき言ったとおり。もう時間ないのでね、発表してもらいます。発表してくれる人いますか。発言できなかったからこっちで言いたいって人。あら、消極的ですね。NA男さん、どうぞ。

52NA男：えっ、あっはい。

53T：なるべくここに（板書を指して）出てない人

を指名して。（NA男：あっそうか。え、え、じゃNK女さん）はい、NK女さん。大体でいいよ、こんな事を書こうと思ってることを。はい。じゃあ一応聞いてください。はい。

54NK女：それぞれの意見を聞いて（T：大きい声で）、それぞれ意見が違って、（T：うん）色々な考えを深めることができたけど、（T：うん）意見が違いすぎて結論が難しかった。（T：難しかったんですね。はい、わかりました。ありがとうございます）

55T：はい、もう一人いきましよう。NK女さんどなたか。

56NK女：HS男さん。

57T：HS男さん、はい。

58HS男：んと、はい。みんなの意見を聞いて、（T：うん）あの、身近な事でもよく考えたらあの、おかしなことが一杯あるなということがわかりました。（T：なるほどね。身近なものでも一杯あったということですね。はい、ありがとうございます）

59T：ま、じゃ私からね。始めに、初めにしてはまあよく頑張ってくれたかなとは思いますが。ね、うん。残念ながら発言したかった人もいますけど、今まで調べてる様子を見て、あ、これももっと言ってくれればいいのになってのはたくさんあったのがね、ちょっと残念かなと思います。はい、じゃ終わりにしましょう。

60委員長：起立、気をつけ、礼。

61T：ありがとうございました。

62C：ありがとうございました。

6. この授業をどう見るか

この授業の参観者は、本校校長・伊藤晋氏と溜池である。昨年度までの実践では、子ども達はさかんに、校長や教頭そして参観している本校の教諭に話しかけ、自分たちが作っている共同学習や、共同学習で話しあっていることについて、どう思うのかを、聞く場面が多く良く見られた。しかし、今年度の実践では、子ども達はとても落ち着いた雰囲気、お互いの考えを柔らかく受け止め、それをつないだり、つないで発展させたりということを、上手に行い、参観しておられた伊藤校長に意見を求める場面に遭遇することはなかった。これは、何事もしっかりと受け止める懐の深い伊藤校長の人柄を、子ども達が

知っているからでもあるが、3年をかけて本校を良くしていった伊藤校長の大きな成果が、子ども達にそうさせていたのではないかと推察される。

子ども達の意見は、一見ばらばらのように見えるが、よく読むと重なり合いまた相互に影響しあって、50NA男君まで上り詰めていくのである。50NA男君は、「同調性」が社会に蔓延しそれが学校や教室にも反映される中で、同調しないオタクである自分について、「俺は何も思わないです。オタクだねって言われても」と仲間の前で胸を張り、「同調性っていうのを何だろう、無くしてやってわけじゃないけど、何だろうな。ま、そういうのが無くなれば、まあちょっといい社会になるんじゃないかなって思いました」と言うのである。「同調性」が「無くなれば」「まあちょっといい社会」になるのかもしれないというNA男君の考えについては、どこにも「同調性」のない社会はもしかすると息苦しいのかも知れないではないか、という考えを我々に想起させるが、だからこそNA男君の意見は貴重なのである。しかし、そのような考えを想起し、NA男君の意見は中学生レベルの不完全なものではないかと思うおとなは、NA男君の発言をよく読んで欲しいのである。この子の発言の最後は「思いました」となっており、決して「思います」とはなっていないのである。50NA男君の発言は、自分の不完全さを知り、それをまさに体現したものとなっているのである。このようなNA男君を、この共同学習の最後に登場させた子ども達に改めて敬意を表したい。

※本稿は大嶋が5までの全文を執筆し、溜池が字句等の修正を行ったあと参照し6を書いた。

注

- (1) 溜池善裕・大嶋正克「中学校社会科における学習指導について④—生徒の主体的な学びを促し、学力を向上させる手立てについての実践—」(『宇都宮大学共同教育学部実践紀要』第9号, pp.83-95, 2022年8月)。大嶋正克「課題研究II 自ら課題をつくり、本気の学びを創る生徒たち—参観者に話しかける子ども—」(『日本社会科教育学会全国大会発表論文集』第17号, pp.252-253, 2021年11月) および当日配布資料参照。
- (2) 大嶋正克・溜池善裕「中学校社会科における

学習指導について②—教科担任制における授業での関わりを通して—」(『宇都宮大学共同教育学部実践紀要』第7号, pp.53-56, 2020年8月)。

- (3) 大嶋正克・溜池善裕「中学校社会科における学習指導について③—コロナ渦における様々な制約を乗り越えての実践—」(『宇都宮大学共同教育学部実践紀要』第8号, pp.395-398, 2021年8月)。
- (4) 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』(東洋館出版社, 2020年)。大嶋正克・溜池善裕「中学校社会科における学習指導について」(『宇都宮大学教育学部実践紀要』第6号, pp.463-472, 2019年8月)。

本研究はJSPS科研費20K02727の助成を受けた。

2023年3月31日 受理

Learning Guidance in Junior High School Social Studies (5): What I have learned through my educational practice

Yoshihiro TAMEIKE and Masakatsu OOSHIMA